



達成感が自信と意欲に

子どもが自分でしようとする気持ちを大切にしながら、子どもの気持ちに寄り添った保育を行い、「自分でできた」という気持ちを持たせてあげることが子どもたちの自信と意欲へとつながります。

section 22 2歳児の保育

友だちとの関係を広げていく時期

友だちと一緒にいる楽しさが増えてきますが、けんかやトラブルもおこります。子どもの行動には、その子なりの理由があることを理解し、お互いの気持ちを受け止め、自分の気持ちを言葉にできない子に対しては大人が仲立ちになり代弁することで子ども自身が表現できるようにしています。

また保育園も小さな社会です。簡単な決まりやルールをこの時期から伝えていきます。

① **ワンポイントアドバイス**

何を言っても「イヤ！」一体どうすれば？

この時期は「～しよう」という言い方は逆効果。「手を洗おうね」「トイレに行こうね」と言えば「イヤ！」となります。

そこで「こっちの服とあっちの服、どっちにする？」と子どもに選択権や決定権を持たせてあげましょう。

そして何事にも子どもとしっかり向き合っていきます。



子どもの気持ちを大切にしていきます



興味や探求意欲を大切に

食事・排泄・睡眠・衣類の着脱など、「自分でやってみたい」という子どもの気持ちを大切に、保育者が適切な援助をしながら、子どもの思うようにできたときには十分に褒めて、子どもの自信や意欲を育てます。また「なんで?」「どうして?」と子どもたちが興味関心を持つことが増えていく時期です。子どもの意欲を大切に、時には言葉をかけたり、ちょっと手伝ってあげることで見守られているという安心感の中、自立への一歩が踏み出せるように配慮しています。



子ども同士の仲立ちとなって

一人遊びが中心でしたが、周囲の友だちなどが気になり始め、少しずつ子ども同士の会話が増えていきます。時には自分の思い通りにならなかったことに対して反抗したり自己主張が多くなったりします。自分の思いをうまく言葉にできないことから、友だちを引っかいたり噛みついてしまうこともあります。そんな時には保育者が仲立ちに入り、お互いの思いや気持ちを代弁したり、言葉で自分の思いを伝える大切さを知らせていきます。



想像力を豊かに

お母さんや物語の主人公になったつもりになり、ごっこ遊びの世界を大切に、時には物語のオオカミ、時にはお母さんになりきることで、一緒に遊びを楽しみます。



楽しく身体を動かし、運動能力を育みます

運動機能がさらに発達し、歌やリズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ時期です。泥んこ遊びなど全身を使った遊びから、手指の遊びも取り入れていきます。散歩をするときにも目的をもって少し遠い場所まで歩けたことで、自信につながります。遊びの中で大きいクラスの子を真似ながら、楽しく身体を動かし、運動能力を引き出すように工夫しています。

